

平成29年度地方税制改正（税負担軽減措置等）要望事項

（ 新設 ・ 拡充 ・ 延長 ・ その他 ）

No	6	府省庁名	環境省
対象税目	個人住民税 法人住民税 事業税 不動産取得税 <u>固定資産税</u> 事業所税 その他（ ）		
要望項目名	コージェネレーションに係る課税標準の特例措置の延長		
要望内容（概要）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特例措置の対象（支援措置を必要とする制度の概要） コージェネレーション及びこれと同時に設置する熱媒体搬送用ポンプ又は専用の自動調整装置、蓄熱槽、冷却装置、系統連携用保護装置、ポンプ、配管に係る取得価額 ・ 特例措置の内容 上記設備について、新たに固定資産税が課せられることとなった年度から3年度分の固定資産税に限り、課税標準を、課税標準となるべき価額の5/6に軽減する。 		
関係条文	地方税法附則第15条第34項、地方税施行規則附則6条60項		
減収見込額	[初年度] - (▲ 84)	[平年度]	(▲ 228)
	[改正増減収額] -		(単位：百万円)
要望理由	<p>(1) 政策目的 自立かつ制御可能な分散型エネルギーであるコージェネレーションシステムの普及拡大を通じて、大規模集中型電力システムの脆弱性を補完し、もって電源セキュリティの向上を図る（エネルギーの安定供給）。また、発電の際に発生する廃熱をオンサイトで有効利用すること（エネルギーの高度利用）により、大幅な省エネルギー及び環境負荷の低減を実現し、地球温暖化問題に対応する（環境への適合）。</p> <p>(2) 施策の必要性 エネルギー基本計画に位置づけられたエネルギー政策の基本的視点である、安全性を前提とした、エネルギー安定共有の確保、経済効率性の向上、環境への適合、いわゆる3E+Sの実現の観点から、コージェネレーションの導入を促進することの意義は極めて大きく、平成27年7月の長期エネルギー需給見通しにおいて、「分散型エネルギーシステムとして活用が期待されるエネファームを含むコージェネレーションの導入促進を図る」とされている。</p> <p>また、平成28年5月に地球温暖化対策推進本部が決定した地球温暖化対策計画においても、省エネルギー性能の高い設備・機器の導入促進として、「コージェネレーション設備など幅広い業種で使用されている主要なエネルギー消費機器について、エネルギー効率の高い設備・機器の導入を促進する」とされている。さらに、「総務省地域の元気創造本部」が地域活性化の視点から見た成長戦略を構築するために推進している地域経済好循環推進プロジェクトの取組の一つである「分散型エネルギーインフラプロジェクト」においても、コージェネレーションに対する期待は大きい。</p> <p>このように、コージェネレーションは、熱と電気の一体利用や排熱の有効活用による大幅な省エネルギー・省CO2を実現し、また発電機として電力需給対策・電源セキュリティの向上に寄与し、さら地域活性化による成長戦略にも貢献できる、多様な便益を有する設備であることから、本税制措置を始め、様々な施策を集中的に講ずることにより、更なる普及拡大を進めていくことが必要である。</p>		
本要望に対応する縮減案	なし		

合理性	政策体系における政策目的の位置付け	1. 地球温暖化対策の推進 1-1 地球温暖化対策の計画的な推進による低炭素社会づくり
	政策の達成目標	エネルギー基本計画（平成26年4月閣議決定）において、一次エネルギー構造における各エネルギー源の位置付けとして「地球温暖化対策の観点からも、コージェネレーションなど（中略）産業分野などにおける天然ガスシフトを着実に促進」する必要があるとされ、また、二次エネルギー構造としても熱利用として「コージェネレーションの導入拡大を図っていくことが必要」とされている。 なお、2030年までに「分散型エネルギーシステムとして活用が期待されるエネファームを含むコージェネレーション（1,190億kWh程度）の導入促進を図る。」（長期エネルギー需給見通し（平成27年7月））とされている。
	税負担軽減措置等の適用又は延長期間	適用期間：平成29年4月1日～平成31年3月31日までの2年間
	同上の期間中の達成目標	本措置適用コージェネレーションの導入見込（発電出力、フロー） 平成29年度 1,080万kW 平成30年度 1,100万kW
政策目標の達成状況	コージェネレーション導入量の推移（発電出力、ストック） 平成25年度 1,003万kW 平成28年度 1,060万kW（見込） 平成26年度 1,020万kW 平成27年度 1,040万kW（見込）	
有効性	要望の措置の適用見込み	平成29年度 20万kW 平成30年度 20万kW ※数値の根拠は以下の通り。 2020年度における導入目標量からの想定 (1,134万kW-1,020万kW) / 6 ≒ 20万kW
	要望の措置の効果見込み（手段としての有効性）	天然ガス等を燃料とするコージェネレーションシステムは、発電時に発生する廃熱を有効利用することで高い総合効率を実現し、省エネ・省CO2に加え、電力需給対策・セキュリティ向上の観点からも非常に有用な設備である。
相当性	当該要望項目以外の税制上の支援措置	○生産性向上設備投資促進税制（国税） 生産性を向上させる設備の取得者に対し、取得費用について即時償却又は税額控除を認めるもの。コージェネレーションも対象設備の一つ。
	予算上の措置等の要求内容及び金額	○電気・熱エネルギー高度利用支援事業費補助金（平成28年度予算：15.0億円） コージェネレーションの更なる普及拡大のため、市場競争力のある高効率コージェネレーション機器の導入に対する支援を行う。 また、コージェネレーションを活用し、効果的なエネルギー利用を図るエネルギーサービス事業への重点的な支援を行う。
	上記の予算上の措置等と要望項目との関係	コージェネレーション導入拡大を進めるためには、イニシャルコストの低減とランニングメリットの向上が必要。 本措置は、設備保有後の運転初期段階におけるランニングコストの軽減を図ることができ、コージェネレーションの導入促進につながるものである。
	要望の措置の妥当性	コージェネレーションは、需要家設備として導入されるため、需要家は電力会社から系統電力を購入するケースとの経済性比較（投資回収年数）を行うことになる。設備導入当初の固定資産税について軽減措置を講ずることは、需要家の運転初期段階のランニングコスト軽減につながり、投資決断を促進する効果が期待できる。

<p>税負担軽減措置等の適用実績</p>	<p>適用数は以下のとおり。</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>(25年度)</td> <td>(26年度)</td> <td>(27年度)</td> </tr> <tr> <td>35件</td> <td>53件</td> <td>85件</td> </tr> </table>	(25年度)	(26年度)	(27年度)	35件	53件	85件
(25年度)	(26年度)	(27年度)					
35件	53件	85件					
<p>「地方税における税負担軽減措置等の適用状況等に関する報告書」における適用実績</p>	<p>(記載なし)</p>						
<p>税負担軽減措置等の適用による効果（手段としての有効性）</p>	<p>コージェネレーションの導入見込（発電出力、フロー）</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成27年度</td> <td>11万kW</td> <td>平成28年度</td> <td>20万kW</td> </tr> </table>	平成27年度	11万kW	平成28年度	20万kW		
平成27年度	11万kW	平成28年度	20万kW				
<p>前回要望時の達成目標</p>	<p>平成27年度は概ね達成した。 当年度も本支援制度等を活用することで、順調に導入が推移すると想定。</p>						
<p>前回要望時からの達成度及び目標に達していない場合の理由</p>	<p>平成27年度は概ね達成した。 当年度も本支援制度等を活用することで、順調に導入が推移すると想定。</p>						
<p>これまでの要望経緯</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度 創設 ・平成27年度 延長 						